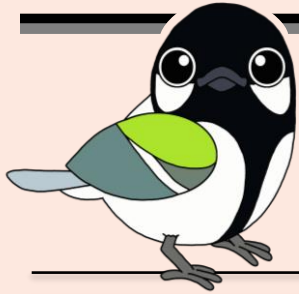


しじゅうから



小鳥の森で観察してみよう107

ヒガラ

分類 スズメ目 シジュウカラ科

住んでいる環境

- ・冬は平地の林など

見られる時期

- ・冬（10月～3月）

小鳥の森で見られる場所

- ・シジュウカラの小径
- ・カワセミの小径
- ・ホオジロの小径

頭の羽が少し
逆立つ黒い三角巾（さんかくきん）
模様

匿名希望さんがかいてくれました。

1 月 いきもの森予報

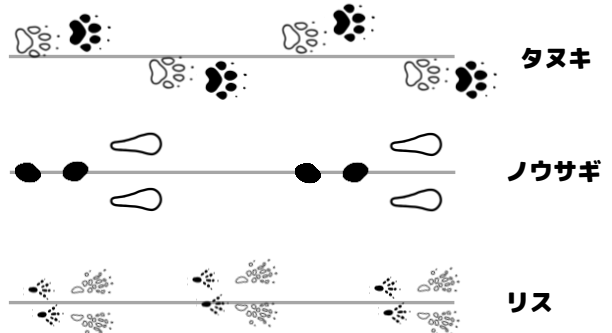
雪上のフィールドサイン

今季は久しぶりに冬らしい冬になると言われています。小鳥の森でも12月中に雪が積もるのは久々。1月にかけて予報通りの冬になるか楽しみなところですよ。

さて、雪が降ると森の中ではいつもよりよく分ることがあります。それは動物たちがいた証拠。フィールドサインと呼ばれています。まず、雪が積もると、動物の足跡がくっきり残ります。動物によって足跡の形・歩き方などが違うため、何の動物が通ったのかがわかるのです。小鳥の森でもタヌキ、ノウサギ、リス、キツネ、アナグマなどたくさんの動物の足跡が見つかります。

また、足跡だけでなく、動物が食べた痕（あと）も雪の上ではわかりやすくなります。実のついてある木の下に行くと、雪の上に不自然に実のかけらやタネが散らばっていることがあります。それは鳥が食べた証拠。樹上で食事をした痕が白い雪の上では目立つため、そこに鳥が来ていたことがわかりやすいのです。

雪の日だけのお楽しみを知っておくと、冬の森歩きもワクワクするかもしれませんね。

小鳥の森で見られるフィールドサイン（足跡）
（●：前足、○：後足）

赤い実に集まる鳥たち

今年は12月中にまとまった雪が降りました。雪が降ると森の中の色合いは単純になります。そんな中で目立つのが赤い実。そこにはたくさんの鳥たちが集まっていました。

一番よく来ていたのはヒヨドリ。他の鳥が実を食べていたり、実のところに近づこうとすると、すぐさま追い出してしまう。ヒヨドリがいるとせっかくやってきた鳥が寄りつけず、ゆっくり見ることができないので観察する側にとってはちょっと厄介者です。冬のエサの少ない時期、木の実が貴重。攻撃された鳥、ましてや普段は落ち葉の下のムシなどを食べている鳥たちは、雪が積もると探せなくなってしまうので、何度ヒヨドリに追い払われようと、見張りのすきを見て赤い実にやってくるのです。ヒヨドリの他にはシロハラ、ジョウビタキ、メジロなどの姿も見ることができました。



ヒヨドリ



シロハラ



ジョウビタキ

スタッフだより

猛牛も言いなり?!

2021年は丑（うし）年。今回は牛に関する植物をご紹介します。その名も「牛殺し」。本当の名前は「カマツカ」と言い、小さな白い花や赤い実がかわいらしいバラ科の樹木です。堅くて鎌（かま）の柄（つか）に使っていたためその名がつけました。

ではなぜそんな恐ろしい別名が…。昔、農家は重労働な農作業をさせる理由で牛を飼っていました。その大きな牛を扱いやすくするために鼻に通す木として使っていた説、牛を追い込むための棒として使っていた説。また、密な枝に牛の角が絡まってしまう説など、いくつかの名前の由来があります。

小鳥の森でも、冬景色の中で鮮やかな赤い実が映えています。野鳥が喜んで食べにくる木の、ちょっと面白いエピソード。いかがでしたか？

（スタッフ ころさわ さちこ）

出前講座のご案内

小鳥の森では、市内の学校や学習センターなど様々な団体向けに出前講座を実施しています。

森の話や自然素材（放射線量の低い地域や県外からの寄付でいただいたもの）を用いた工作など色々な講座内容を用意しております。季節や人数、活動時間に合わせたプログラムの作成、組み合わせも可能です。

受付は先着順に行っていますので、希望日の2週間前までに電話かFAXにてお申し込み下さい（※希望日に予約が入っていた場合、対応できないこともございますので、ご了承ください）。



出前講座の様子

*小鳥の森通信「しじゅうから」はホームページで**カラー版**をご覧ください。

*園内の環境放射線量の詳細はホームページをご覧ください。

福島市小鳥の森（ネイチャーセンター） 開館時間：午前8時30分～午後5時

《入場無料》休館日：毎週月曜日（祝祭日の時はその翌日）

〒960-8202 福島市山口字宮脇98 Tel：024-531-8411 fax：024-534-8800

小鳥の森のホームページ・・・<http://www.f-kotorinomori.org/>

小鳥の森通信「しじゅうから」2021年1月号No.418／企画・発行：福島市小鳥の森／日本野鳥の会ふくしま